専門基礎分野

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
解剖学Ⅰ	1	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀

授業の目標

鍼灸師として必要な人体解剖学の基礎的知識を習得する。

授業の概要

医学の基礎となる解剖学の中で最も基礎的な分野となる，骨についての基本的知識を理解することを目的とする。骨の構造、働きについて各部ごとに分類し解説する。

授業計画

第１週　　人体解剖学概説　意義と分類　器官系統　人体の区分
第２週　　運動系　骨格系　総論　役割、分類、構造・・・
第３週　　運動系　骨格系　総論　骨の連結（関節）
第４週　　運動系　骨格系　各論　脊柱の役割、頚椎、胸椎
第５週　　運動系　骨格系　各論　腰椎、仙骨、尾骨、連結
第６週　　運動系　骨格系　各論　胸骨、肋骨、連結
第７週　　運動系　骨格系　各論　上肢骨　肩甲骨、鎖骨、上腕骨
第８週　　運動系　骨格系　各論　上肢骨　橈骨、尺骨、手根骨
第９週　　運動系　骨格系　各論　上肢骨、上肢の関節　手の骨、上肢関節
第１０週　運動系　骨格系　各論　下肢骨　寛骨、骨盤、大腿骨
第１１週　運動系　骨格系　各論　下肢骨　膝蓋骨、脛骨、腓骨
第１２週　運動系　骨格系　各論　下肢骨　足根骨、・・・縦足弓、横足弓
第１３週　運動系　骨格系　各論　下肢の関節　股関節、膝関節、・・・指節間関節
第１４週　運動系　骨格系　各論　頭蓋　脳頭蓋、顔面頭蓋、頭蓋底
第１５週　運動系　骨格系　各論　頭蓋骨　頭蓋前面、泉門、顎関節

テキスト

解剖学　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
解剖学Ⅰ	1	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀

授業の目標

鍼灸師として必要な人体解剖学の基礎的知識を習得する。

授業の概要

骨格筋の系統解剖学及び各部位（６大関節、頸部など）の局所解剖学を学習する。

授業計画

第１週　　骨格筋　形態、作用、補助装置、神経
第２週　　頭部の筋　表情筋、咀嚼筋
第３週　　頚部の筋　広頚筋、胸鎖乳突筋・・・
第４週　　胸部の筋　大胸筋、小胸筋・・・
第５週　　筋系　胸部の筋　外肋間筋、内肋間筋・・・
第６週　　腹部の筋　腹直筋・・・
第７週　　筋系　腹部の筋　腰方形筋・・・
第８週　　背部の筋　上肢の筋
第９週　　上肢の筋　上肢帯、前腕
第１０週　上肢の筋　前腕、手
第１１週　上肢の筋　前腕、手
第１２週　下肢の筋　下肢帯、大腿
第１３週　下肢の筋　大腿、下腿
第１４週　下肢の筋　下腿、足
第１５週　まとめ

テキスト

解剖学　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
解剖学Ⅳ	1	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀

授業の目標

鍼灸師として必要な人体解剖学の基礎的知識を習得する。

授業の概要

内臓系の消化器，呼吸器，泌尿器，生殖器に所属する器官の正常な形態と機能を学ぶ。

授業計画

第１週　　内臓系　概論
第２週　　内臓系　呼吸器　呼吸器の働き
第３週　　内臓系　呼吸器　鼻、鼻腔
第４週　　内臓系　呼吸器　咽頭、喉頭
第５週　　内臓系　呼吸器　気管、気管支
第６週　　内臓系　呼吸器　肺
第７週　　内臓系　呼吸器　胸膜、縦隔
第８週　　内臓系　消化器　消化器の働き、種類、構造
第９週　　内臓系　消化器　口、口腔腺、歯、舌
第１０週　内臓系　消化器　咽頭、食道
第１１週　内臓系　消化器　胃
第１２週　内臓系　消化器　小腸
第１３週　内臓系　消化器　大腸
第１４週　内臓系　消化器　肝臓、胆嚢
第１５週　内臓系　消化器　膵臓、腹膜

テキスト

解剖学　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床医学総論	2	前期・後期	講義・実習	平山　慶一

授業の目標

鍼灸師として必要な現代医学の診断及び治療に関する基礎的知識について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。

授業の概要

診察の概要
診察の方法
臨床検査法
治療学
臨床心理

授業計画

第１週　　診察の概要
第２週　　診察の方法
第３週　　問診、身体の診察
第４週　　全身及び局所の診察
第５週　　その他の診察
第６週　　検査法とその意義
第７週　　理学的検査
第８週　　運動機能検査
第９週　　内視鏡検査
第１０週　主要基準値
第１１週　主な症状の診察　頭痛
第１２週　主な症状の診察　頭痛
第１３週　主な症状の診察　発熱
第１４週　主な症状の診察　発熱
第１５週　まとめ

テキスト

臨床医学総論　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

ビジュアルノート　（メディックメディア社）

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床医学総論	2	前期・後期	講義・実習	平山　慶一

授業の目標

鍼灸師として必要な現代医学の診断及び治療に関する基礎的知識について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。

授業の概要

診察の概要
診察の方法
臨床検査法
治療学
臨床心理

授業計画

第１週　　主な症状の診察　めまい
第２週　　主な症状の診察　耳鳴、難聴
第３週　　主な症状の診察　肩こり
第４週　　主な症状の診察　動悸
第５週　　主な症状の診察　息切れ、胸痛
第６週　　主な症状の診察　腹痛
第７週　　主な症状の診察　悪心嘔吐
第８週　　主な症状の診察　便秘と下痢
第９週　　主な症状の診察　のぼせと冷え
第１０週　主な症状の診察　不眠、疲労倦怠
第１１週　主な症状の診察　肥満とやせ
第１２週　主な症状の診察　咳と痰
第１３週　主な症状の診察　むくみ
第１４週　主な症状の診察　多尿と頻尿
第１５週　まとめ

テキスト

臨床医学総論　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

ビジュアルノート　（メディックメディア社）

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床医学各論Ⅱ	3	前期・後期	講義・実習	高橋　和行

授業の目標

広範に及ぶ疾患を、基礎医学に基づいて理解させることを目的とする。

授業の概要

呼吸器疾患・腎尿器疾患を行う。

概要・症状・治療等について講義を行う。

授業計画

第１週　　呼吸器疾患（上気道炎・急性気管支炎）
第２週　　呼吸器疾患（肺炎・肺結核）
第３週　　呼吸器疾患（肺気腫・慢性気管支炎）
第４週　　呼吸器疾患（気管支喘息）
第５週　　呼吸器疾患（特発性肺線維症・気胸）
第６週　　呼吸器疾患（肺癌）
第７週　　呼吸器疾患（気管支拡張症）
第８週　　腎尿器疾患（急性糸球体腎炎）
第９週　　腎尿器疾患（慢性糸球体腎炎）
第１０週　腎尿器疾患（ネフローゼ症候群）
第１１週　腎尿器疾患（急性腎不全・慢性腎不全）
第１２週　腎尿器疾患（腎盂腎炎・膀胱炎・尿道炎）
第１３週　腎尿器疾患（腎細胞癌・膀胱癌）
第１４週　腎尿器疾患（腎尿管結石症）
第１５週　腎尿器疾患（前立腺肥大・前立腺癌）

テキスト

臨床医学各論　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

内科学Ⅰ・Ⅱ　医学書院

ハリソン内科学第２版１・２　メディカルサイエンスインターナショナル）

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
リハビリテーション医学	3	前期・後期	講義・実習	伊藤　彩花

授業の目標

施術者として必要なリハビリテーション医学の基礎的知識について習得させ、これを施術に応用する能力と態度を養う。

授業の概要

リハビリテーションの考え方、評価法、各種療法について学ぶ。

授業計画

第１週　　リハビリテーションの概要
第２週　　医学的リハビリテーションの概要
第３週　　障害の評価①　心身・身体機能、活動、参加
第４週　　障害の評価②　合併症、運動麻痺、発達、高次機能、心理
第５週　　理学療法①　運動療法の意義
第６週　　理学療法②　基本的運動療法
第７週　　理学療法③　特殊な技術を要する運動療法
第８週　　理学療法④　応用的な運動療法
第９週　　理学療法⑤　運動療法機器、物理療法
第１０週　作業療法
第１１週　言語聴覚療法
第１２週　装具療法と義肢
第１３週　リハビリテーション看護
第１４週　ソーシャルワーク、心理的アプローチ
第１５週　まとめ

テキスト

リハビリテーション医学　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

標準リハビリテーション医学　津山直一監修　医学書院

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
リハビリテーション医学	3	前期・後期	講義・実習	伊藤　彩花

授業の目標

施術者として必要なリハビリテーション医学の基礎的知識について習得させ、これを施術に応用する能力と態度を養う。

授業の概要

各疾患の病態（評価）及びリハビリテーションの方法を学ぶ。

授業計画

第１週　　脳卒中のリハビリテーション①　概要・病態
第２週　　脳卒中のリハビリテーション②　理学療法
第３週　　脊髄損傷のリハビリテーション①　概要・病態
第４週　　脊髄損傷のリハビリテーション②　理学療法
第５週　　切断のリハビリテーション
第６週　　小児麻痺のリハビリテーション
第７週　　肺疾患のリハビリテーション
第８週　　心疾患のリハビリテーション
第９週　　整形外科疾患のリハビリテーション　五十肩・腰痛
第１０週　整形外科疾患のリハビリテーション　変形性関節症
第１１週　整形外科疾患のリハビリテーション　変形性関節症・大腿骨頚部骨折
第１２週　整形外科疾患のリハビリテーション　末梢神経障害
第１３週　整形外科疾患のリハビリテーション　関節リウマチ
第１４週　整形外科疾患のリハビリテーション　その他（スポーツ障害、膠原病など）
第１５週　まとめ

テキスト

リハビリテーション医学　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

標準リハビリテーション医学　津山直一監修　医学書院

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
医療概論	1	前期・後期	講義・実習	木場　由衣登

授業の目標

はり師・きゅう師を取り巻く環境（医療制度及び社会福祉制度）及び医療倫理について学習し、はり師・きゅう師として必要な知識及び態度を育てる

授業の概要

医学史全般

現代医療及び社会福祉制度

授業計画

第１週　近代医学の特徴と代替医療

第２週　世界の古代医学（古代バビロニア･エジプト･アラビア･中国の医学）

第３週　西洋医学①

第４週　西洋医学②

第５週　西洋医学③

第６週　現代の医学と医療①

第７週　現代の医学と医療②　近代医学の特徴

第８週　現代の医学と医療③　医療と社会

第９週　現代の医学と医療④　医療従事者

第１０週　現代の医学と医療⑤　医療･福祉施設、医療経済

第１１週　社会福祉制度①　医療保険の定義、医療保険の仕組み

第１２週　社会福祉制度②　公費負担制度、介護サービス行政

第１３週　医療倫理①　医療の倫理

第１４週　医療倫理②　医療倫理教育

第１５週　医療倫理③　施術者としての倫理

テキスト

医療概論　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
社会保障制度及び職業倫理	3	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀 伊藤　彩花

授業の目標

免許取得後、開業する者に対する社会保障制度及び職業倫理について理解させる。
療養費の適正な支給申請ができるよう教授し、シミュレーションを行い修得させる。
災害時の被災者支援について知識と臨床能力を育てる。

授業の概要

社会保障制度、職業倫理、療養費と支給申請、災害支援対策について学習する。

授業計画

第１週　　保険の種類
第２週　　社会保障制度１　社会福祉・公的扶助
第３週　　社会保障制度２　医療保険・労働保険
第４週　　社会保障制度３　まとめ
第５週　　職業倫理の概要
第６週　　職業倫理１　守秘義務
第７週　　職業倫理２　医療過誤
第８週　　職業倫理３　守秘義務・医療過誤まとめ
第９週　　職業倫理４　治療中の接し方、セクシャルハラスメントについて
第１０週　職業倫理５　まとめ
第１１週　療養費の取扱い１　療養費の概要及び療養費支給申請の基礎
第１２週　療養費の取扱い２　療養費支給申請の実務
第１３週　災害支援対策１　被災地、避難場所のボランティア支援の概要
第１４週　災害支援対策２　被災者の健康を守るための基本的知識
第１５週　災害支援対策３　鍼灸施術ボランティア活動の基本的臨床能力

テキスト

教材・参考文献

社会保障制度 中央法規出版
療養費の支給基準　社会保険研究所
鍼・灸・マッサージ治療のための健康保険取扱いテキスト　保険鍼灸マッサージ協会
鍼灸施術ボランティアマニュアル　日本鍼灸師会

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
関係法規	3	前期・後期	講義・実習	木場　由衣登

授業の目標

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律及び関係法規を学ぶことで、はり師、きゅう師として必要な知識と態度を養う

授業の概要

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律の全文及び各種関係法規の概要について習得する。

授業計画

第１週　法とは何か
第２週　あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律①　沿革
第３週　あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律②　免許と試験
第４週　あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律③　業務
第５週　あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律④　学校・養成施設
第６週　あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律⑤　指定試験機関
第７週　あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律⑥　罰則
第８週　関係法規①　医療法
第９週　関係法規②　医師法、保健師助産師看護師法
第１０週　関係法規③　その他の医療従事者に関する法律
第１１週　関係法規④　医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
第１２週　関係法規⑤　衛生関係法規
第１３週　関係法規⑥　社会福祉関係法規
第１４週　関係法規⑦　社会保険関係法規
第１５週　まとめ

テキスト

関係法規　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

専門分野

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
東洋医学概論Ⅰ	1	前期・後期	講義・実習	木場　由衣登

授業の目標

教科書『東洋医学概論』の全体内容を解りやすく説明し、学生の理解を進めるとともに、中国の古典を原点とする難解な単語・語句に対する解説を加えながら授業を行う。

授業の概要

テキストを用い東洋医学の全体像と陰陽五行から初歩的な知識を理解させる。

授業計画

第１週　　Ⅰ．東洋医学の起源と発展：東洋医学と西洋医学の比較
第２週　　１．東洋医学の起源と発展（１）：東洋医学史概説
第３週　　２．東洋医学の起源と発展（２）：現代の東洋医学概説
第４週　　３．陰陽五行論（１）：陰陽論の成立と基本概念
第５週　　４．陰陽五行論（２）：五行論の基礎理論
第６週　　Ⅱ．東洋医学の身体観：人体の構成と基本要素
第７週　　１．気血津液の生成（１）：気の生成と病理
第８週　　２．気血津液の生成（２）：血・津液の生成と病理
第９週　　３．五臓六腑（１）：蔵象概説・肝の生理と関連機構
第１０週　　４．五臓六腑（２）：心の生理と関連機構・脾の生理と関連機構
第１１週　　５．五臓六腑（３）：肺の生理と関連機構・腎の生理と関連機構
第１２週　　６．五臓六腑（４）：六腑の生理と関連機構①
第１３週　　７．五臓六腑（５）：六腑の生理と関連機構②・奇恒の腑
第１４週　　８．五臓六腑（６）：臓腑間の生理と関連する病証
第１５週　　９．五臓六腑（７）：蔵象まとめ

テキスト

東洋医学概論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

針灸学（基礎編）　東洋学術出版社
中国医学思想史　東京大学出版会

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
東洋医学概論Ⅰ	1	前期・後期	講義・実習	木場　由衣登

授業の目標

教科書『東洋医学概論』の内容より、東洋医学における病理病証を理解し、身体の各症状について、五行・五臓を駆使した組み立てができるようする。

授業の概要

テキストを用い三因論による病理と五臓を主体とした病理病証について説明し、理解させる。

授業計画

第１週　　Ⅲ．東洋医学の疾病観：病因論概説（三因論）
第２週　　１．外因（１）：風・寒
第３週　　２．外因（２）：暑・湿
第４週　　３．外因（３）：燥・火
第５週　　４．内因（１）：怒・喜
第６週　　５．内因（２）：思・悲・憂
第７週　　６．内因（３）：恐・驚
第８週　　７．不内外因：飲食・労倦
第９週　　８．不内外因：房事・外傷
第１０週　　９．病理と病証（１）：八綱
第１１週　　１０．病理と病証（２）：臓腑の病証①：肝
第１２週　　１１．病理と病証（３）：臓腑の病証②：心
第１３週　　１２．病理と病証（４）：臓腑の病証③：脾
第１４週　　１３．病理と病証（５）：臓腑の病証④：肺
第１５週　　１４．病理と病証（６）：臓腑の病証⑤：腎・病理病証のまとめ

テキスト

東洋医学概論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

中医学の基礎　東洋学術出版社
針灸学（基礎編）　東洋学術出版社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
東洋医学概論Ⅱ	2	前期・後期	講義・実習	木場　由衣登

授業の目標

教科書『東洋医学概論』のベースとし、四診による東洋医学の診断学を理論から理解させ、実践ができるように導く。

授業の概要

テキストを用いて四診について伝統的な論理を解説し、臨床応用についても学習する。

授業計画

第１週　　診断論：四診とその臨床応用についての概説
第２週　　望診（１）：顔面診
第３週　　望診（２）：舌診①
第４週　　望診（３）：舌診②
第５週　　望診（４）：虎口三関の脈
第６週　　聞診（１）：臭いと声
第７週　　問診（１）：飲食
第８週　　問診（２）：大小便
第９週　　問診（３）：月経・痛み
第１０週　　切診（１）：腹診
第１１週　　切診（２）：脈診①：概説・三部九候診
第１２週　　切診（３）：脈診②：六部定位
第１３週　　切診（４）：脈診③：二十四脈状
第１４週　　切診（５）：脈診④：実践論
第１５週　　証のたてかた

テキスト

東洋医学概論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

中医学の基礎　東洋学術出版社
針灸学（基礎編）　東洋学術出版社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
経絡経穴概論Ⅰ	1	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀

授業の目標

はり師、きゅう師として必要な経絡・経穴の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を習得させる。

授業の概要

経絡　経穴の概要

経穴　任脈・督脈の流注、経穴名と部位

　　十二正経の流注、経穴名と部位（手の太陰肺経）

授業計画

第１週　　東洋医学と西洋医学の概要　臓腑の概要　臓腑と経絡の関係　経絡の意義と概要

第２週　　経絡４系統の区分について　陰陽説の概念　十四経の流注について

第３週　　経穴の意義と概要　骨度法、同身寸法の概念と解説　経絡と経穴の関わり

第４週　　作用と禁鍼穴、禁灸穴について　要穴の意義と概要

第５週　　五兪穴（五行穴）と五行の概念

第６週　　五要穴　八会穴

第７週　　四総穴　八総穴　下合穴

第８週　　督脈　流注、生理作用、病証、連係臓腑

第９週　　督脈　経穴（長強～大椎）

第１０週　督脈　経穴（瘂門～齦交）

第１１週　任脈　流注、生理作用、病証、連係臓腑　経穴（会陰～中極）

第１２週　任脈　経穴（関元～鳩尾）

第１３週　任脈　経穴（中庭～承漿）

第１４週　手の太陰肺経　流注、病証、連係臓腑、通過器官　是動病と所生病の概念

第１５週　手の太陰肺経　経穴（中府～少商）

テキスト

経絡経穴概論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

針灸学　東洋学術出版社

危険経穴の断面解剖アトラス　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
経絡経穴概論Ⅰ	1	前期・[後期]	[講義]・実習	杉若　晃紀

授業の目標

はり師、きゅう師として必要な経絡・経穴の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を習得させる。

授業の概要

経穴　十二正経の流注、経穴名と部位（手の陽明大腸経から足の少陰腎経まで）

授業計画

第１週　手の陽明大腸経　流注、病証、連係臓腑、通過器官　経穴（商陽～手五里）
第２週　手の陽明大腸経　経穴（臂臑～迎香）
　　足の陽明胃経　流注、病証、連係臓腑、通過器官　経穴（承泣～欠盆）
第３週　足の陽明胃経　経穴（気戸～気衝）
第４週　足の太陰脾経　流注、病証、連係臓腑、通過器官　経穴（隠白～商丘）
第５週　足の太陰脾経　経穴（三陰交～大包）　脾の大絡、十五絡について
第６週　手の少陰心経　流注、病証、連係臓腑、通過器官　経穴（極泉～少衝）
第７週　手の太陽小腸経　流注、病証、連係臓腑、通過器官　経穴（少沢～小海）
第８週　手の太陽小腸経　経穴（肩貞～聴宮）
第９週　足の太陽膀胱経　流注、病証、連係臓腑、通過器官　経穴（睛明～天柱）
第１０週　足の太陽膀胱経　経穴（大杼～大腸兪）
第１１週　足の太陽膀胱経　経穴（小腸兪～委中）
第１２週　足の太陽膀胱経　経穴（附分～秩辺）
第１３週　足の太陽膀胱経　経穴（合陽～至陰）
第１４週　足の少陰腎経　流注、病証、連係臓腑、通過器官　経穴（湧泉～陰谷）
第１５週　足の少陰腎経　経穴（横骨～兪府）

テキスト

経絡経穴概論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

針灸学　東洋学術出版社
危険経穴の断面解剖アトラス　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
経絡経穴概論Ⅱ	2	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀

授業の目標

はり師、きゅう師として必要な経絡・経穴の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を習得させる。

授業の概要

経穴　十二正経の流注、経穴名と部位（手の陽明心包経から足の少陰腎経まで）

授業計画

第１週　手の厥陰心包経　流注、病証、連係臓腑、通過器官　経穴（天池～中衝）
第２週　手の少陽三焦経　流注、病証、連係臓腑、通過器官　経穴（関衝～臂臑）
第３週　手の少陽三焦経　経穴（天牖～糸竹空）
第４週　足の少陽胆経　流注、病証、連係臓腑、通過器官　経穴（瞳子髎～完骨）
第５週　足の少陽胆経　経穴（淵液～膝陽関）
第６週　足の少陽胆経　経穴（陽陵泉～足竅陰）
第７週　足の厥陰肝経　流注、病証、連係臓腑、通過器官　経穴（大敦～曲泉）
第８週　足の厥陰肝経　経穴（陰包～期門）
第９週　奇経の意義と概要
第１０週　奇穴（四神聡～翳明）
第１１週　奇穴（子宮～四華）
第１２週　奇穴（肩内陵～十宣）
第１３週　奇穴（鶴頂～失眠）
第１４週　奇穴（六つ灸～脚気八処）
第１５週　現代医学的意義と研究　関連する反応点、反応帯と施術

テキスト

経絡経穴概論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

針灸学　東洋学術出版社
危険経穴の断面解剖アトラス　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう理論Ⅰ	1	前期・後期	講義・実習	平山　慶一

授業の目標

はり師・きゅう師に必要な基礎的・臨床的知識及び治効理論を学ぶことにより、臨床に向けて必要な知識及び態度を育てる。

授業の概要

はり・きゅうの基礎知識、方法、適応と禁忌、治効理論などについて学ぶ。

授業計画

第１週　　はり術の定義と沿革、きゅう術の定義と沿革、鍼灸治療の特徴
第２週　　毫鍼の各部の名称と特徴、鍼の長さと太さ、鍼尖の形と種類と特徴、鍼・鍼管の形状
第３週　　古代九鍼
第４週　　刺鍼の方式
第５週　　刺鍼の術式①
第６週　　刺鍼の術式②
第７週　　特殊鍼法①　小児鍼・皮内鍼・円皮鍼
第８週　　特殊鍼法②　低周波鍼通電療法・灸頭鍼
第９章　　特殊鍼法③　レーザー鍼　その他
第１０週　灸の材料①　モグサ、モグサの製法と線香
第１１週　有痕灸、無痕灸、特殊灸法　薬物灸など
第１２週　刺激量、感受性、鍼灸療法の適応症、鍼灸療法の禁忌
第１３週　リスク管理の基本
第１４週　鍼療法の過誤と副作用①
第１５週　鍼療法の過誤と副作用②

テキスト

はりきゅう理論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

鍼灸医療安全ガイドライン　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう理論Ⅰ	1	前期・後期	講義・実習	平山　慶一

授業の目標

はり師・きゅう師に必要な基礎的・臨床的知識及び治効理論を学ぶことにより、臨床に向けて必要な知識及び態度を育てる。

授業の概要

はり・きゅうの基礎知識、方法、適応と禁忌、治効理論などについて学ぶ。

授業計画

第１週　　きゅう療法の過誤と副作用①
第２週　　きゅう療法の過誤と副作用②
第３週　　感染症対策①
第４週　　感染症対策②
第５週　　鍼灸の刺激と反応①　痛みの受容と伝導①
第６週　　鍼灸の刺激と反応②　痛みの受容と伝導②
第７週　　鍼灸刺激と相互作用（治効理論まとめ）①　温度感覚の受容と伝導
第８週　　鍼灸刺激と相互作用（治効理論まとめ）②　触圧感覚の受容と伝導
第９週　　鍼灸刺激と相互作用（治効理論まとめ）③　筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝導
第１０週　総復習①　鍼の基礎　鍼灸刺激と反射
第１１週　総復習①　鍼の基礎　鍼鎮痛①
第１２週　総復習①　鍼の基礎　鍼鎮痛②
第１３週　総復習②　灸の基礎　鍼鎮痛③　内因性モルヒネ、下行性疼痛抑制系
第１４週　総復習②　灸の基礎　鍼鎮痛④
第１５週　総復習②　灸の基礎　鍼鎮痛⑤　ゲートコントロール説

テキスト

はりきゅう理論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

鍼灸医療安全ガイドライン　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう理論Ⅱ	2	前期・後期	講義・実習	平山　慶一

授業の目標

はり師・きゅう師に必要な基礎的・臨床的知識及び治効理論を学ぶことにより、臨床に向けて必要な知識及び態度を育てる。

授業の概要

はり・きゅうの基礎知識、方法、適応と禁忌、治効理論などについて学ぶ。

授業計画

第１週　　総復習④　治効理論　自律神経に及ぼす鍼灸治療の影響①
第２週　　総復習④　治効理論　自律神経に及ぼす鍼灸治療の影響②
第３週　　総復習④　治効理論　自律神経に及ぼす鍼灸治療の影響③　ポリモーダル受容器
第４週　　生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響①
第５週　　生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響②
第６週　　鍼灸刺激と免疫系
第７週　　鍼灸刺激と内分泌系
第８週　　鍼灸刺激と神経系
第９週　　サイバネティックスの学説
第１０週　フィードバック機構
第１１週　ホメオスタシス
第１２週　汎適応症候群の学説
第１３週　過剰刺激症候群の学説
第１４週　圧発汗反射の学説
第１５週　まとめ

テキスト

はりきゅう理論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

鍼灸医療安全ガイドライン　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
東洋医学臨床論Ⅰ	2	前期・後期	講義・実習	神園　恭一

授業の目標

鍼灸の適応であるか否かを判断でき、適応疾患に対して西洋医学的及び東洋医学的な考えで鍼灸施術ができるよう指導する。

授業の概要

総論

症候別治療

授業計画

第１週　　治療原則　・治療計画・東洋医学的処方・現代医学的処方

第２週　　頚肩腕痛

第３週　　腰下肢痛

第４週　　関節痛

第５週　　肩こり

第６週　　運動麻痺

第７週　　頭痛

第８週　　顔面痛

第９週　　顔面痛

第１０週　不眠

第１１週　便秘と下痢

第１２週　腹痛

第１３週　悪心嘔吐食欲不振

第１４週　整形的疾患総まとめ

第１５週　内科的疾患総まとめ

テキスト

東洋医学臨床論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

針灸学（臨床編）　東洋学術出版社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
東洋医学臨床論Ⅰ	2	前期・後期	講義・実習	神園　恭一

授業の目標

鍼灸の適応であるか否かを判断でき、適応疾患に対して西洋医学的及び東洋医学的な考えで鍼灸施術ができるよう指導する。

授業の概要

症候別治療

授業計画

第１週　　高血圧と低血圧
第２週　　胸痛
第３週　　咳と痰
第４週　　めまい
第５週　　めまい
第６週　　めまい
第７週　　顔面麻痺
第８週　　顔面麻痺
第９週　　顔面麻痺
第１０週　月経異常
第１１週　月経異常
第１２週　排尿異常
第１３週　糖尿病
第１４週　肥満
第１５週　まとめ

テキスト

東洋医学臨床論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

針灸学（臨床編）　東洋学術出版社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
東洋医学臨床論Ⅱ	3	前期・後期	講義・実習	神園　恭一

授業の目標

鍼灸の適応であるか否かを判断でき、適応疾患に対して西洋医学的及び東洋医学的な考えで鍼灸施術ができるよう指導する。

授業の概要

症候別治療

授業計画

第１週　　肥満
第２週　　高脂血症
第３週　　高血圧
第４週　　痛風
第５週　　生活習慣病に対する鍼灸まとめ
第６週　　皮膚科疾患に関する鍼灸
第７週　　骨粗鬆症
第８週　　骨粗鬆症
第９週　　骨粗鬆症
第１０週　パーキンソン病
第１１週　パーキンソン病
第１２週　パーキンソン病
第１３週　認知症
第１４週　認知症
第１５週　まとめ

テキスト

東洋医学臨床論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

針灸学（臨床編）　東洋学術出版社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
東洋医学臨床論Ⅱ	3	前期・後期	講義・実習	神園　恭一

授業の目標

鍼灸の適応であるか否かを判断でき、適応疾患に対して西洋医学的及び東洋医学的な考えで鍼灸施術ができるよう指導する。

授業の概要

症候別治療

授業計画

第１週　　肩のスポーツ障害
第２週　　肩のスポーツ障害
第３週　　肩のスポーツ障害
第４週　　肘のスポーツ障害
第５週　　肘のスポーツ障害
第６週　　腰部のスポーツ障害
第７週　　腰部のスポーツ障害
第８週　　膝や大腿部のスポーツ障害
第９週　　膝や大腿部のスポーツ障害
第１０週　膝や大腿部のスポーツ障害
第１１週　下腿部及び足関節のスポーツ障害
第１２週　下腿部及び足関節のスポーツ障害
第１３週　症例検討
第１４週　症例検討
第１５週　まとめ

テキスト

東洋医学臨床論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

針灸学（臨床編）　東洋学術出版社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
スポーツ鍼灸学	2	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀／神園　恭一 高橋　和行／平山　慶一 伊藤　彩花

授業の目標

部位別に発生するスポーツと障害の関係を理解する。

鍼灸の適応であるか否かを判断でき、適応疾患に対して鍼灸施術ができるよう指導する。

授業の概要

症候別治療

授業計画

第１週　　概論①
第２週　　概論②
第３週　　頸部のスポーツ障害
第４週　　頸部のスポーツ障害と鍼灸治療
第５週　　肩のスポーツ障害
第６週　　肩のスポーツ障害と鍼灸治療
第７週　　肘のスポーツ障害①
第８週　　肘のスポーツ障害②
第９週　　肘のスポーツ障害と鍼灸治療
第１０週　手首のスポーツ障害
第１１週　手首のスポーツ障害と鍼灸治療
第１２週　手のスポーツ障害
第１３週　手のスポーツ障害と鍼灸治療
第１４週　胸部、背部のスポーツ障害
第１５週　胸部、背部のスポーツ障害と鍼灸治療

テキスト

図解 スポーツ鍼灸臨床マニュアル　医歯薬出版

東洋医学臨床論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

針灸学（臨床編）　東洋学術出版社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
スポーツ鍼灸学	2	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀／神園　恭一 高橋　和行／平山　慶一 伊藤　彩花

授業の目標

部位別に発生するスポーツと障害の関係を理解する。

鍼灸の適応であるか否かを判断でき、適応疾患に対して鍼灸施術ができるよう指導する。

授業の概要

症候別治療

授業計画

第１週　　腰部、殿部のスポーツ障害①

第２週　　腰部、殿部のスポーツ障害②

第３週　　腰部、殿部のスポーツ障害と鍼灸治療

第４週　　骨盤、股関節、大腿のスポーツ障害

第５週　　骨盤、股関節、大腿のスポーツ障害と鍼灸治療

第６週　　膝のスポーツ障害

第７週　　膝のスポーツ障害と鍼灸治療

第８週　　下腿のスポーツ障害

第９週　　下腿のスポーツ障害と鍼灸治療

第１０週　足関節のスポーツ障害

第１１週　足関節のスポーツ障害と鍼灸治療

第１２週　足部のスポーツ障害①

第１３週　足部のスポーツ障害②

第１４週　足部のスポーツ障害と鍼灸治療

第１５週　まとめ

テキスト

図解 スポーツ鍼灸臨床マニュアル　医歯薬出版

東洋医学臨床論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

針灸学（臨床編）　東洋学術出版社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
鍼灸臨床教育Ⅰ （病態生理学／生体観察）	2	前期・後期	講義・実習	高橋　和行

授業の目標

身体の仕組みを理解するために生体を様々な観察を行う。

授業の概要

生理学・解剖学と関連付けて、体表や血液から情報を取り出して仕組みを学ぶ

授業計画

第１週　身体の仕組みと構造　１体表
第２週　２内臓
第３週　循環　１心臓
第４週　２血圧
第５週　体液　１血液
第６週　２浸透圧
第７週　３尿
第８週　感覚器　１聴力
第９週　２眼底
第１０週　聴力検査実習
第１１週　眼底検査実習
第１２週　血圧検査実習
第１３週　尿検査実習
第１４週　血液　Ⅰ　血液型と浸透圧
第１５週　血液　Ⅱ　赤血球白血球ＨｂＨｔの観察

テキスト

生理学・解剖学　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験及びレポートの成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
鍼灸臨床教育Ⅰ （病態生理学／生体観察）	2	前期・後期	講義・実習	伊藤　彩花

授業の目標

臨床生理学的に症状を理解する

授業の概要

臨床生理学の実習を通して病態を理解する様に学習する。

授業計画

第１週　　病態と生理　その仕組み
第２週　　心疾患と心電図血圧の変化　１
第３週　　心疾患と心電図血圧の変化　２
第４週　　肺疾患とスパイロメーターの変化
第５週　　筋疾患と筋電図
第６週　　画像診断の基礎　　１
第７週　　画像診断の基礎　　２
第８週　　画像診断の基礎　　３
第９週　　平衡感覚と眼振
第１０週　心電図実習
第１１週　スパイロメーター実習
第１２週　筋電図実習
第１３週　平衡感覚実習
第１４週　眼振電図実習
第１５週　超音波実習

テキスト

生理機能検査学　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験及びレポートの成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
鍼灸臨床教育Ⅱ	3	前期・後期	講義・実習	神園　恭一

授業の目標

臨床を想定しての総合評価（診察、検査）の模擬練習を行うことで、臨床へ向けての技術と態度を養う。

授業の概要

模擬患者を用いての診察、検査のシミュレーション実習及びその評価。

授業計画

第１週　　臨床の実際
第２週　　医療面接
第３週　　診察
第４週　　検査
第５週　　シミュレーション実習①
第６週　　カンファレンス①
第７週　　シミュレーション実習②
第８週　　カンファレンス②
第９週　　シミュレーション実習③
第１０週　カンファレンス③
第１１週　シミュレーション実習④
第１２週　カンファレンス
第１３週　シミュレーション実習⑤
第１４週　カンファレンス⑤
第１５週　まとめ

テキスト

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
鍼灸臨床教育Ⅲ	3	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀／高橋　和行 伊藤　彩花

授業の目標

鍼灸が期待される、四つの領域について概要を学び、それぞれのニーズに対応できる知識をつける。

授業の概要

① 地域で期待されるはき治療　②高齢社会におけるはき師の役割　③女性の美容と健康管理におけるはき師の役割　④ＱＯＬの向上とはき師の役割

授業計画

第１週　　オリエンテーション：はき師を取り巻く現在の環境と社会的ニーズ
第２週　　地域と密接な関係をもつ施術所のありかた
第３週　　在宅におけるはき師の役割
第４週　　通所介護施設におけるはき師の役割
第５週　　介護支援専門員としての関わり方
第６週　　高齢者に対する東洋医学的な予防のありかた
第７週　　高齢者に対するコミュニケーション術
第８週　　高齢者特有の疾患に対するはき治療
第９週　　要介護高齢者を抱える家族の現状と注意点
第１０週　　女性のライフステージにあわせたはき治療
第１１週　　妊娠・出産への支援
第１２週　　美容へのアプローチ
第１３週　　緩和医療におけるはき治療
第１４週　　はき師に期待される資質と緩和ケアへの姿勢
第１５週　　緩和医療の実際

テキスト

プリント等

教材・参考文献

社会あはき学　東洋療法学校協会編　医道の日本社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
鍼灸臨床教育Ⅲ	3	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀／高橋　和行 伊藤　彩花

授業の目標

鍼灸が期待される、四つの領域について概要を学び、それぞれのニーズに対応できる知識をつける。

授業の概要

① 地域で期待されるはき治療　②高齢社会におけるはき師の役割　③女性の美容と健康管理におけるはき師の役割　④ＱＯＬの向上とはき師の役割

授業計画

第１週　　オリエンテーション：はき師を取り巻く現在の環境と社会的ニーズ
第２週　　地域と密接な関係をもつ施術所のありかた
第３週　　在宅におけるはき師の役割
第４週　　通所介護施設におけるはき師の役割
第５週　　介護支援専門員としての関わり方
第６週　　高齢者に対する東洋医学的な予防のありかた
第７週　　高齢者に対するコミュニケーション術
第８週　　高齢者特有の疾患に対するはき治療
第９週　　要介護高齢者を抱える家族の現状と注意点
第１０週　　女性のライフステージにあわせたはき治療
第１１週　　妊娠・出産への支援
第１２週　　美容へのアプローチ
第１３週　　緩和医療におけるはき治療
第１４週　　はき師に期待される資質と緩和ケアへの姿勢
第１５週　　緩和医療の実際

テキスト

プリント等

教材・参考文献

社会あはき学　東洋療法学校協会編　医道の日本社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう適応の判断Ⅰ	2	前期・後期	講義・実習	高橋　和行

授業の目標

はり師・きゅう師が業務を行うに当たり、対象となる疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、はり・きゅうを適切に実施できる能力を身に付ける。

授業の概要

はり・きゅうを行う上でのリスク管理と各疾患における評価について
部位別の刺鍼・施灸の適応について
疾患別の主症状と刺鍼・施灸の適応について

授業計画

第１週　　はり師，きゅう師等に関する法律に見る安全な施術・リスクマネージメント
第２週　　医療面接・診察の記録・治療計画
第３週　　痛みの評価・QOL の評価
第４週　　整形外科領域の評価
第５週　　耳鼻科領域・泌尿生殖器圭領域・消化器系領域の評価
第６週　　消化器系領域・産婦人科領域・精神神経科領域の評価
第７週　　高齢者のための評価
第８週　　頭部・顔面部・頸部（末梢神経刺鍼）
第９週　　頭部・顔面部・頸部（筋肉刺鍼）
第１０週　上肢（末梢神経刺鍼）
第１１週　上肢（筋肉刺鍼）
第１２週　胸部・背部（末梢神経刺鍼・筋肉刺鍼）
第１３週　腰部（末梢神経刺鍼・筋肉刺鍼）
第１４週　下肢（末梢神経刺鍼）
第１５週　下肢（筋肉刺鍼）

テキスト

教材・参考文献

図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ　文光堂
図解鍼灸臨床マニュアル　医歯薬出版株式会社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう適応の判断Ⅱ	3	前期・後期	講義・実習	高橋　和行

授業の目標

はり師・きゅう師が業務を行うに当たり、対象となる疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、はり・きゅうを適切に実施できる能力を身に付ける。

授業の概要

はり・きゅうを行う上でのリスク管理と各疾患における評価について
部位別の刺鍼・施灸の適応について
疾患別の主症状と刺鍼・施灸の適応について

授業計画

第１週　　消化器系の主要症状１（食欲不振、腹痛、悪心・嘔吐）
第２週　　消化器系の主要症状２（下痢・便秘）
第３週　　呼吸・循環器系の主要症状１（咳・痰、呼吸困難、動悸）
第４週　　呼吸・循環器系の主要症状２（高血圧、低血圧、胸痛）
第５週　　運動器系の主要症状１（頸肩腕痛、腰痛・腰下肢痛、肩こり）
第６週　　運動器系の主要症状２（運動麻痺、末梢神経麻痺、肩関節痛）
第７週　　運動器系の主要症状３（肘関節痛、手関節痛、指関節痛）
第８週　　運動器系の主要症状４（股関節痛、膝関節痛、足関節痛）
第９週　　耳鼻科・眼科系の主要症状１（鼻閉・鼻漏、めまい、耳鳴）
第１０週　耳鼻科・眼科系の主要症状２（難聴、眼精疲労）
第１１週　泌尿生殖器系の主要症状１（排尿障害、勃起障害、月経痛、帯下）
第１２週　泌尿生殖器系の主要症状２（つわり、骨盤位、早産）
第１３週　泌尿生殖器系の主要症状３（微弱陣痛、分娩時和痛、乳汁分泌不全）
第１４週　精神・神経系の主要症状（頭痛、顔面痛、不眠症、不定愁訴、うつ病）
第１５週　その他の主要症状（冷え症、肥満、やせ、脱毛症、かゆみ）

テキスト

教材・参考文献

図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ　文光堂
図解鍼灸臨床手技マニュアル　医歯薬出版株式会社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
社会はりきゅう学	3	前期・後期	講義・実習	高橋　和行

授業の目標

はり師を取り巻く社会環境を理解する。

授業の概要

教科書を中心に適宜、新聞記事等から時事の話しを加えていく。

授業計画

第１週　　はり師・きゅう師をとりまく社会環境
第２週　　はり師・きゅう師をとりまく社会環境
第３週　　はり師・きゅう師をとりまく社会環境
第４週　　はり師・きゅう師をとりまく社会環境
第５週　　地域で期待される、はり師・きゅう師の業務
第６週　　地域で期待される、はり師・きゅう師の業務
第７週　　地域で期待される、はり師・きゅう師の業務
第８週　　高齢者に対するはり師・きゅう師の役割
第９週　　高齢者に対するはり師・きゅう師の役割
第１０週　高齢者に対するはり師・きゅう師の役割
第１１週　女性の健康管理
第１２週　女性の健康管理
第１３週　少子化社会における、はり師・きゅう師の役割
第１４週　少子化社会における、はり師・きゅう師の役割
第１５週　まとめ

テキスト

社会あはき学　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

医道の日本

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
社会はりきゅう学	3	前期・後期	講義・実習	高橋　和行

授業の目標

きゅう師を取り巻く社会環境を理解する。

授業の概要

教科書を中心に適宜、新聞記事等から時事の話しを加えていく。

授業計画

第１週　　併用する物理療法
第２週　　併用する物理療法
第３週　　併用する物理療法
第４週　　併用する物理療法
第５週　　ストレス社会における、はり師・きゅう師の役割。セルフケアについて
第６週　　ストレス社会における、はり師・きゅう師の役割。セルフケアについて
第７週　　ストレス社会における、はり師・きゅう師の役割。セルフケアについて
第８週　　スポーツ障害におけるはり師・きゅう師の役割
第９週　　スポーツ障害におけるはり師・きゅう師の役割
第１０週　スポーツ障害におけるはり師・きゅう師の役割
第１１週　施術所の経営管理
第１２週　施術所の経営管理
第１３週　施術所の経営管理
第１４週　施術所の経営管理
第１５週　まとめ

テキスト

社会あはき学　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

医道の日本

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はり基礎実技Ⅰ	1	前期・後期	講義・実習	神園　恭一

授業の目標

はりの基本技術（刺鍼法）を習得し、はり師としての必要な技術と態度を養う。

授業の概要

刺鍼について準備から基本手技までを習得する。

授業計画

第１週　　ガイダンス（服装、道具、教室の使用法）
第２週　　消毒及び道具の管理
第３週　　基礎練習①　鍼と鍼管　片手挿管法
第４週　　基本練習②　片手挿管法　押手　弾入法
第５週　　基本練習③　押手　弾入法　刺鍼練習器
第６週　　基本練習④　刺鍼練習器
第７週　　自分への刺鍼①　刺鍼の準備　患部の消毒
第８週　　自分への刺鍼②　下腿への刺鍼練習
第９週　　自分への刺鍼③　下腿への刺鍼練習
第１０週　自分への刺鍼④　大腿への刺鍼練習
第１１週　自分への刺鍼⑤　大腿への刺鍼練習
第１２週　自分への刺鍼⑥　下腿経穴への刺鍼練習
第１３週　自分への刺鍼⑦　下腿経穴への刺鍼練習
第１４週　自分への刺鍼⑧　総合練習
第１５週　自分への刺鍼⑩　総合連習

テキスト

図解鍼灸臨床手技マニュアル　医歯薬出版

教材・参考文献

はりきゅう基礎技術学　南江堂

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はり基礎実技Ⅰ	1	前期・後期	講義・実習	神園　恭一

授業の目標

はりの基本技術（刺鍼法）を習得し、はり師としての必要な技術と態度を養う。

授業の概要

刺鍼について準備から基本手技までを習得する。

授業計画

第１週　他者への刺鍼①　諸注意（道具・消毒・過誤・タオルの使い方・体位）
第２週　他者への刺鍼②　下腿への刺鍼
第３週　他者への刺鍼③　下腿への刺鍼
第４週　他者への刺鍼④　前腕への刺鍼
第５週　他者への刺鍼⑤　前腕への刺鍼
第６週　他者への刺鍼⑥　総合練習
第７週　他者への刺鍼⑦　総合練習
第８週　刺鍼法①　斜刺
第９週　刺鍼法②　斜刺
第１０週　刺鍼法③　斜刺
第１１週　刺鍼法④　横刺
第１２週　刺鍼法⑤　横刺
第１３週　刺鍼法⑥　杉山流基本手技
第１４週　刺鍼法⑦　杉山流基本手技
第１５週　総合練習

テキスト

図解鍼灸臨床手技マニュアル　医歯薬出版

教材・参考文献

はりきゅう基礎技術　南江堂

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はり基礎実技Ⅱ	1	前期・[後期]	講義・[実習]	杉若　晃紀 伊藤　彩花

授業の目標

取穴が出来るように経絡の走行から理解し、正確な経穴の位置が取れる技術を養う。
刺鍼の技術を復習・確認し、臨床力を養う。

授業の概要

体表解剖学的に理解をすすめ、身体各部の触診法を習得する。
経穴を取穴し刺鍼する。

授業計画

第１週　　概論
第２週　　骨度法　取穴の際の指標①
第３週　　上肢　体表解剖と取穴（主に要穴）①
第４週　　下肢（足部）　体表解剖と取穴（主に膝以下の要穴）①
第５週　　下肢（足部）　体表解剖と取穴（主に膝以下の要穴）②
第６週　　腰殿部　体表解剖と取穴、仙骨孔刺鍼
第７週　　肩背部　体表解剖と取穴①、肩井刺鍼と安全刺入深度
第８週　　膝の治療　横刺からの刺針転向法
第９週　　咽喉痛（扁桃炎など），咳（風邪など）の治療　奇穴
第１０週　腹部　体表解剖と取穴（主に要穴)、腹診
第１１週　急性腰痛・寝違えの治療　斜刺の刺入方法　横刺の刺入方法
第１２週　顔面・頭頸部　体表解剖と取穴①
第１３週　鼻づまり・眼精疲労の治療　顔面部への刺鍼①、鼻通
第１４週　灸頭鍼①
第１５週　簡単な実践練習　問診から治療穴、治療方法の決定まで①

テキスト

解剖学・経絡経穴概論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
きゅう基礎実技Ⅰ	1	前期・後期	講義・実習	平山　慶一

授業の目標

きゅうの基本技術（施灸法）を習得し、きゅう師としての必要な技術と態度を養う。

授業の概要

施灸の基礎技術として艾の捻りだし、艾炷の作成、艾炷への点火を中心に行なう。

授業計画

第１週　　きゅう基礎実技Ⅰの概要説明、施灸の実際
第２週　　半米粒大と米粒大の大きさの概念・艾炷の作成練習（半米粒大・板上に立てる）
第３週　　艾炷の作成練習①（半米粒大・板上に立てる）
第４週　　艾炷の作成練習②（半米粒大・板上に立てる）、1 分間に 5 壮作成できるように練習
第５週　　艾炷の作成練習③（艾炷への点火の練習・線香の持ち方・点火方法など）、中間チェック
第６週　　艾炷の作成練習④（半米粒大艾を作成し、点火を行う一連の動作がスムーズに行える）
第７週　　艾炷の作成練習⑤（5 分で 25 壮以上施灸出来ることを目標）
第８週　　艾炷の作成練習⑥（5 分で 25 壮以上施灸出来ることを目標）、中間チェック
第９週　　艾炷の作成練習⑦（施灸用紙への練習、半米粒大艾を 10 分間で 50 壮）
第１０週　艾炷の作成練習⑧（施灸用紙への練習、半米粒大艾を 10 分間で 50 壮）
第１１週　艾炷の作成練習⑨（施灸温度計での練習、半米粒大艾を 60℃±10℃で燃焼）
第１２週　艾炷の作成練習⑩（施灸温度計での練習、半米粒大艾を 60℃±10℃で燃焼）
第１３週　自分の体を使って施灸練習①
第１４週　自分の体を使って施灸練習②
第１５週　前期総合チェック

テキスト

図解鍼灸臨床手技マニュアル　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
きゅう基礎実技Ⅰ	1	前期・後期	講義・実習	平山　慶一

授業の目標

きゅうの基本技術（施灸法）を習得し、きゅう師としての必要な技術と態度を養う。

授業の概要

施灸の基礎技術として艾の捻りだし、艾炷の作成、艾炷への点火を中心に行なう。

授業計画

第１週　　自分への施灸練習①
第２週　　自分への施灸練習②
第３週　　自分への施灸練習③、中間チェック
第４週　　他者への施灸練習①（諸注意：消毒、火傷）
第５週　　他者への施灸練習①（下腿）
第６週　　他者への施灸練習③（下腿）
第７週　　他者への施灸練習④（前腕）
第８週　　他者への施灸練習⑤（前腕）
第９週　　他者への施灸練習⑥（背部）
第１０週　他者への施灸練習⑦（背部）
第１１週　他者への施灸練習⑧（腹部）、中間チェック
第１２週　主要経穴への施灸①
第１３週　主要経穴への施灸②
第１４週　主要経穴への施灸③
第１５週　後期総合チェック

テキスト

図解鍼灸臨床手技マニュアル　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
きゅう基礎実技Ⅱ	1	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀 伊藤　彩花

授業の目標

取穴が出来るように経絡の走行から理解し、正確な経穴の位置が取れる技術を養う。
施灸の技術を復習・確認し、臨床力を養う。

授業の概要

体表解剖学的に理解をすすめ、身体各部の触診法を習得する。
経穴を取穴し施灸する。

授業計画

第１週　概論
第２週　骨度法　取穴の際の指標②
第３週　上肢　体表解剖と取穴（主に要穴）②
第４週　透熱灸　不眠、食中毒、車酔いの治療
第５週　八分灸　井穴への施灸、痔の治療
第６週　治療所見学
第７週　肩背部　体表解剖と取穴②
第８週　膝の治療　簡単な灸頭鍼法
第９週　咽喉痛（扁桃炎など），咳（風邪など）の治療　三角の灸
第１０週　便秘・下痢の治療　マックバーネ点、ランツ圧痛点、便通点
第１１週　温筒灸
第１２週　顔面・頭頸部　体表解剖と取穴②
第１３週　鼻づまり・眼精疲労の治療　顔面部への刺鍼②
第１４週　灸頭鍼②
第１５週　簡単な実践練習　問診から治療穴、治療方法の決定まで②

テキスト

解剖学・経絡経穴概論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう応用実技Ⅰ	2	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀 神園　恭一

授業の目標

臨床に必要なさまざまな技術と態度を身につけさせる。

授業の概要

各種刺鍼法・施灸法技術を習得させる。

授業計画

第１週　　灸頭鍼法①
第２週　　灸頭鍼法②
第３週　　知熱灸
第４週　　棒灸、温筒灸
第５週　　小児鍼（接触鍼と摩擦鍼）　成立ち／講義、米山鍼の調整
第６週　　小児鍼（接触鍼と摩擦鍼）　実技　知熱灸
第７週　　箱灸（枡灸）　作製
第８週　　箱灸、隔物灸解説
第９週　　隔物灸　生姜灸／大蒜灸／塩灸／味噌灸／大蒜味噌灸／和紙灸
　　竹灸／薬灸／押し灸（枇杷の葉灸）／その他
第１０週　皮内鍼、円皮鍼、スキン鍼法　肋間神経痛の治療
第１１週　トリガーポイント①
第１２週　トリガーポイント②
第１３週　中国式刺入法　基本手技（切指・扶植・舒張・并指・挟持）、長鍼
第１４週　頭皮鍼
第１５週　吸玉（吸角）　基本手技、刺絡説明

テキスト

図解鍼灸臨床手技マニュアル　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう応用実技Ⅰ	2	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀 神園　恭一

授業の目標

臨床に必要なさまざまな技術と態度を身につけさせる。

授業の概要

各種刺鍼法・施灸法技術を習得させる。

授業計画

第１週　　灸頭鍼法①
第２週　　灸頭鍼法②
第３週　　知熱灸
第４週　　棒灸、温筒灸
第５週　　小児鍼（接触鍼と摩擦鍼）　成立ち／講義、米山鍼の調整
第６週　　小児鍼（接触鍼と摩擦鍼）　実技　知熱灸
第７週　　箱灸（枡灸）　作製
第８週　　箱灸、隔物灸解説
第９週　　隔物灸　生姜灸／大蒜灸／塩灸／味噌灸／大蒜味噌灸／和紙灸
　　竹灸／薬灸／押し灸（枇杷の葉灸）／その他
第１０週　皮内鍼、円皮鍼、スキン鍼法　肋間神経痛の治療
第１１週　トリガーポイント①
第１２週　トリガーポイント②
第１３週　中国式刺入法　基本手技（切指・扶植・舒張・并指・挟持）、長鍼
第１４週　頭皮鍼
第１５週　吸玉（吸角）　基本手技、刺絡説明

テキスト

図解鍼灸臨床手技マニュアル　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう応用実技Ⅱ	2	前期・後期	講義・実習	木場　由衣登

授業の目標

東洋医学的見地に基づいて診察から治療法までを習得させることにより、臨床へ向けて必要な技術と態度を養う。

授業の概要

東洋医学における診断、証の立て方、治療法についての知識と技術を習得する。

授業計画

第１週　　ガイダンス：東洋医学の臨床について
第２週　　望聞問切について
第３週　　望診（１）：顔面診　色相と顔貌と五蔵の関係
第４週　　望診（２）：舌診①　要点説明
第５週　　望診（３）：舌診②　実践に向けての知識・演習
第６週　　聞診（１）：体臭
第７週　　聞診（２）：声と呼吸の症状に関する診断
第８週　　問診（１）：睡眠の問診，陰虚･陽虚（虚労･勞倦）について
第９週　　問診（２）：飲食と大小便の問診
第１０週　切診（１）：脈診の種類と仕方
第１１週　切診（２）：六部定位診の基礎と実践
第１２週　切診（３）：六部定位診の臨床応用
第１３週　切診（４）：脈状診の解説と実践
第１４週　切診（５）：脈状診の臨床応用
第１５週　四診のまとめ・演習

テキスト

東洋医学概論･東洋医学臨床論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

経絡治療のすすめ　医道の日本社
脈状診の研究　緑書房
中医蔵象学　人民衛生出版社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう応用実技Ⅱ	2	前期・後期	講義・実習	木場　由衣登

授業の目標

経絡治療の基本的実技と診断を学び、卒業までに様々な臨床に対応できるような実践的技術と知識を体得する。また、臨床演習ではカルテを一枚以上記入できるようになること。

授業の概要

経絡治療の基礎となる手技（刺法･取穴法･脈診）と各症状･体質についての知識を解説し、臨床ができるように演習を行う。

授業計画

第１週　　演習①　祖脈診と脈診の基本姿勢
第２週　　演習②　選穴と脈診の基礎，取穴①：肺経
第３週　　演習③　取穴②：大腸経，鍼実技①：押手
第４週　　演習④　取穴③：脾経，鍼実技②：刺手，脈診演習
第５週　　演習⑤　取穴④：胃経･腎経，鍼実技③：補法実践，脈診演習
第６週　　演習⑥　取穴⑤：膀胱経，鍼実技④：散鍼の基礎，脈診演習
第７週　　演習⑦　取穴⑥：肝経，鍼実技⑤：補法と瀉法の散鍼，脈診演習
第８週　　演習⑧　取穴⑦：胆経，灸実技：知熱灸と糸状灸，脈診演習
第９週　　演習⑨　取穴⑧：三焦経･小腸経，鍼実技⑦：局所の散鍼と刺入，脈診演習
第１０週　演習⑩　取穴⑨：心経･心包経，治療各論①：腰下肢痛，カルテ記入
第１１週　演習⑪　取穴⑩：脈証からの選穴，治療各論②：頚部･肩背部と上肢の症状，カルテ記入
第１２週　演習⑫　治療各論③：感冒･発熱と呼吸器系症状，カルテ記入
第１３週　演習⑬　治療各論④：体質の症状（倦怠感，不眠，食欲不振，高血圧），カルテ記入
第１４週　演習⑭　治療各論⑤：生殖器･泌尿器系の症状，カルテ記入
第１５週　演習⑮　治療各論⑥：各種アレルギー体質･難病について，カルテ記入

テキスト

東洋医学概論･東洋医学臨床論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

経絡治療のすすめ　医道の日本社
脈状診の研究　緑書房

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう応用実技Ⅲ （臨床実習前施術実技）	2	前期・後期	講義・実習	神園　恭一

授業の目標

臨床に必要な診察及び理学検査の技術を習得させ、臨床に必要な技術と態度を身につけさせる。

授業の概要

臨床に必要な視診、問診、聴診、触診（臨床検査）の技術を習得させる。

授業計画

第１週　身体計測、姿勢
第２週　反射検査、知覚検査
第３週　血圧測定、聴診
第４週　整形外科検査法　頚肩腕症候群
第５週　整形外科検査法　五十肩
第６週　整形外科検査法　股関節の疾患
第７週　整形外科検査法　膝関節の疾患
第８週　整形外科検査法　腰痛症
第９週　視診・問診①
第１０週　視診・問診②
第１１週　総合練習
第１２週　総合練習
第１３週　総合練習
第１４週　総合練習
第１５週　総合練習

テキスト

臨床医学総論　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう応用実技Ⅲ （臨床実習前施術実技）	2	前期・後期	講義・実習	神園　恭一

授業の目標

臨床に必要な診察及び理学検査の技術を習得させ、臨床に必要な技術と態度を身につけさせる。

授業の概要

臨床に必要な視診、問診、聴診、触診（臨床検査）の技術を習得させる。

授業計画

第１週　身体計測、姿勢
第２週　反射検査、知覚検査
第３週　血圧測定、聴診
第４週　整形外科検査法　頚肩腕症候群
第５週　整形外科検査法　五十肩
第６週　整形外科検査法　股関節の疾患
第７週　整形外科検査法　膝関節の疾患
第８週　整形外科検査法　腰痛症
第９週　視診・問診①
第１０週　視診・問診②
第１１週　総合練習
第１２週　総合練習
第１３週　総合練習
第１４週　総合練習
第１５週　総合練習

テキスト

臨床医学総論　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう臨床実技Ⅱ	3	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀／高橋　和行 神園　恭一／平山　慶一 伊藤　彩花

授業の目標

臨床応用への技術を習得させ、臨床へ向けはり師、きゅう師として必要な技術と態度を養う。

授業の概要

疾患を想定しての臨床応用技術を習得させる。

授業計画

第１週　　鍼通電療法　低周波置鍼①
第２週　　鍼通電療法　低周波置鍼②
第３週　　中医学　概要/動作時痛
第４週　　中医学　井穴診断/背候診
第５週　　中医学　六祖脈（脈診）
第６週　　難経による治療穴の選定　臓象と症状／難経六十九難
第７週　　高血圧　血圧測定／人迎洞
第８週　　中医学　舌診
第９週　　中医学　腹診
第１０週　中医学　問診／八綱弁証
第１１週　中医学　復習
第１２週　中医学　試験／フィードバック
第１３週　物療
第１４週　小児はり　概要/基礎
第１５週　小児はり　臨床/応用

テキスト

図解鍼灸臨床手技マニュアル　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう臨床実技Ⅱ	3	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀／高橋　和行 神園　恭一／平山　慶一 伊藤　彩花

授業の目標

臨床応用への技術を習得させ、臨床へ向けはり師、きゅう師として必要な技術と態度を養う。

授業の概要

疾患を想定しての臨床応用技術を習得させる。

授業計画

第１週　　鍼通電療法　低周波置鍼①
第２週　　鍼通電療法　低周波置鍼②
第３週　　中医学　概要/動作時痛
第４週　　中医学　井穴診断/背候診
第５週　　中医学　六祖脈（脈診）
第６週　　難経による治療穴の選定　臓象と症状／難経六十九難
第７週　　高血圧　血圧測定／人迎洞
第８週　　中医学　舌診
第９週　　中医学　腹診
第１０週　中医学　問診／八綱弁証
第１１週　中医学　復習
第１２週　中医学　試験／フィードバック
第１３週　物療
第１４週　小児はり　概要/基礎
第１５週　小児はり　臨床/応用

テキスト

図解鍼灸臨床手技マニュアル　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう臨床実技Ⅲ （手技・物理療法）	3	前期・後期	講義・実習	高橋　和行

授業の目標

西洋医学的見地に基づき、身体各部の触察及び関節・軟部組織の状態を把握する技術を養う。

授業の概要

身体各部の見方及び運動器系の総合的評価を習得する。

授業計画

第１週　　ガイダンス：触察の基礎
第２週　　触察の実際①
第３週　　触察の実際②（前腕で練習）
第４週　　物理療法
第５週　　腰部の見方①
第６週　　腰部の見方②
第７週　　殿部及び股関節の見方①
第８週　　殿部及び股関節の見方②
第９週　　背部・肩関節の見方①
第１０週　背部・肩関節の見方②
第１１週　頸部の見方①
第１２週　頸部の見方②
第１３週　頭部の見方
第１４週　総合練習①
第１５週　総合練習②

テキスト

教材・参考文献

ボディ・ナビゲーション　医道の日本

成績評価の方法

授業内における態度及び技術等を総合的に判断して評価する。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
はりきゅう臨床実技Ⅳ	3	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀／神園　恭一 高橋　和行／平山　慶一 木場　由衣登

授業の目標

臨床応用への技術を習得させ、臨床へ向けはり師、きゅう師として必要な技術と態度を養う。

授業の概要

疾患別に臨床応用技術を習得させる。

授業計画

第１週　　五十肩
第２週　　肩こり　頸肩腕痛
第３週　　腰痛　坐骨神経痛①
第４週　　腰痛　坐骨神経痛②
第５週　　耳鼻咽喉疾患　めまい
第６週　　耳鼻咽喉疾患　難聴・耳鳴
第７週　　生活習慣病（肥満，高血圧，糖尿病）①
第８週　　生活習慣病（肥満，高血圧，糖尿病）②
第９週　　頭痛　眼精疲労
第１０週　変形性関節症
第１１週　腹痛　下痢　便秘
第１２週　婦人科・産科疾患（月経痛，月経困難症，不妊，逆子，他）①
第１３週　婦人科・産科疾患（月経痛，月経困難症，不妊，逆子，他）②
第１４週　風邪症状（発熱，咳嗽，鼻閉，他）
第１５週　慢性疲労（不眠，疲労，他）

テキスト

臨床医学総論・臨床医学各論　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位45時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床実習	1	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀／神園　恭一 木場　由衣登／高橋　和行 平山　慶一／伊藤　彩花

授業の目標

鍼灸院の実際を見て鍼灸医療の流れを知る

授業の概要

施術所の外観・内観の見学と施術の様子の見学

授業計画

第１週　　見学：待合室①
第２週　　見学：待合室②
第３週　　見学：施術室と設備①
第４週　　見学：施術室と設備②
第５週　　見学：衛生室①
第６週　　見学：衛生室②
第７週　　見学：受付業務の流れ①
第８週　　見学：受付業務の流れ②
第９週　　見学：医療面接①
第１０週　見学：医療面接②
第１１週　見学：四診法・検査法①
第１２週　見学：四診法・検査法②
第１３週　見学：施術①
第１４週　見学：施術②
第１５週　見学：施術③

テキスト

教材・参考文献

覚えておきたい事故防止の知識　マンガ鍼灸臨床インシデント　医道の日本社

成績評価の方法

実習の態度、能力を客観的に評価する。
なお、100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位45時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床実習	2	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀／神園　恭一 木場　由衣登／高橋　和行 平山　慶一／伊藤　彩花

授業の目標

受付から医療面接までを行うことができる。

授業の概要

教員の指導のもと受付から医療面接までを行う。

授業計画

第１週　　受付業務：電話応対
第２週　　受付業務：患者応対
第３週　　誘導から施術前のセッティング①
第４週　　誘導から施術前のセッティング②
第５週　　患者とのアイスブレイク①
第６週　　患者とのアイスブレイク②
第７週　　患者とのアイスブレイク③
第８週　　医療面接（主訴を聴く）①
第９週　　医療面接（主訴を聴く）②
第１０週　医療面接（現病歴または経過を聴く）①
第１１週　医療面接（現病歴または経過を聴く）②
第１２週　医療面接（既往歴、社会歴、家族歴を聴く）③
第１３週　医療面接（既往歴、社会歴、家族歴を聴く）④
第１４週　医療面接（解釈モデルを聴く）⑤
第１５週　医療面接（解釈モデルを聴く）⑥

テキスト

教材・参考文献

覚えておきたい事故防止の知識　マンガ鍼灸臨床インシデント　医道の日本社

成績評価の方法

実習の態度、能力を客観的に評価する。
なお、100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位45時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床実習	2	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀／神園　恭一 木場　由衣登／高橋　和行 平山　慶一／伊藤　彩花

授業の目標

四診法・検査法とその結果に関する説明を行うことが出来る。

授業の概要

教員の指導のもと四診法・検査法・病態把握とそれに関わる各種説明を行う。

授業計画

第１週　　四診法・検査法を行う際の導入
第２週　　四診法・検査法を行う際の導入
第３週　　四診法・検査法補助と西洋医学的病態把握①
第４週　　四診法・検査法補助と東洋医学的病態把握②
第５週　　四診法・検査法補助と西洋医学的病態把握③
第６週　　四診法・検査法補助と東洋医学的病態把握①
第７週　　四診法・検査法補助と東洋医学的病態把握②
第８週　　四診法・検査法補助と東洋医学的病態把握③
第９週　　施術におけるインシデント回避①
第１０週　施術におけるインシデント回避②
第１１週　施術方針の説明と施術補助①
第１２週　施術方針の説明と施術補助②
第１３週　施術方針の説明と施術補助③
第１４週　今後の施術計画と生活指導①
第１５週　今後の施術計画と生活指導②

テキスト

教材・参考文献

覚えておきたい事故防止の知識　マンガ鍼灸臨床インシデント　医道の日本社

成績評価の方法

実習の態度、能力を客観的に評価する。
なお、100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位45時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床実習	3	前期・後期	講義・実習	杉若　晃紀／神園　恭一 木場　由衣登／高橋　和行 平山　慶一／伊藤　彩花

授業の目標

実際の臨床現場の流れを理解し患者に対し適切な対応ができ、適切なカルテつくりが出来る。

授業の概要

教員の指導の下、患者に対して医療面接・四診法・取穴・施術補助・カルテ作成を行う。

授業計画

第１週　　カルテ作成①
第２週　　カルテ作成②
第３週　　医療面接・四診法・検査法
第４週　　取穴と灸施術（知熱灸）
第５週　　取穴と灸施術（知熱灸）
第６週　　取穴と灸施術（知熱灸）
第７週　　取穴と灸施術（透熱灸）
第８週　　取穴と灸施術（透熱灸）
第９週　　取穴と灸施術（透熱灸）
第１０週　取穴と置鍼①
第１１週　取穴と置鍼②
第１２週　取穴と鍼通電①
第１３週　取穴と鍼通電②
第１４週　取穴と灸頭鍼①
第１５週　取穴と灸頭鍼②

テキスト

教材・参考文献

覚えておきたい事故防止の知識　マンガ鍼灸臨床インシデント　医道の日本社

成績評価の方法

実習の態度、能力を客観的に評価する。
なお、100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
総合領域Ⅱ （あはき史、医学史等を含む）	2	前期・後期	講義・実習	木場　由衣登

授業の目標

古代から現在までの医学史と文献の取り扱い方を学ぶことで、現代と未来に役立つ鍼灸按摩の位置と方向性を考える。

授業の概要

前半は、伝統医学の歴史と医書の取り扱い方を学ぶ。後半は、文献の取り扱い方を学んだ上で実際に古典文献を読み、その内容を理解する。

授業計画

第１週　　中国と日本の鍼灸按史概説（中医針灸と経絡治療の概要）
第２週　　漢魏三国晋代の医史と文献
第３週　　隋唐宋代の医史と文献
第４週　　金元明清代の医史と文献
第５週　　奈良平安鎌倉時代の鍼灸按摩の歴史
第６週　　安土桃山から江戸時代の鍼灸按摩の歴史と文献
第７週　　江戸時代の鍼灸按摩の歴史と文献
第８週　　明治大正昭和期の鍼灸按摩の歴史と文献
第９週　　経絡治療の成立と基礎理論
第１０週　『素問』の書誌版本と医古文の基礎①（工具書）
第１１週　『素問』の講読と医古文の基礎②（書誌と版本）
第１２週　『霊枢』の書誌版本と医古文の基礎③（校勘と訓詁）
第１３週　『霊枢』の講読と医古文の基礎④（句読と訓読）
第１４週　明代・江戸時代の医史文献と医古文の基礎⑤（語法と修辞）
第１５週　明代・江戸時代の医書と病證学

テキスト

配布資料

教材・参考文献

『新版漢方の歴史』（著者：小曽戸洋）、『針灸の歴史』（著者：小曽戸洋、天野陽介）
『奥村三策の生涯―近代鍼灸教育の父』（著者：松井繁）
『医古文の基礎』（編著：劉振民･周篤文･他、翻訳：荒川緑･宮川浩也･他）
『中国医学古典と日本―書誌と伝承』（著者：小曽戸洋）、『黄帝医籍研究』（著者：真柳誠）
『東洋医学善本叢書』（主編：篠原孝市）、『黄帝内経素問校注』（著者：郭靄春）他

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
総合領域Ⅲ （西洋医学系）	2	前期・後期	講義・実習	平山　慶一

授業の目標

鍼灸師として必要な現代医学の診断及び治療に関する基礎的知識について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。

授業の概要

治療学

臨床心理

授業計画

第１週　　診察法　腰痛

第２週　　診察法　三叉神経痛　肋間神経痛

第３週　　診察法　後頭神経痛　坐骨神経痛

第４週　　診察法　不定愁訴　食欲不振

第５週　　免疫療法、輸血と輸液　治療学　概要

第６週　　治療法の種類　薬物療法

第７週　　治療法の種類　生活指導と栄養療法

第８週　　物理療法

第９週　　治療法の種類　外科的療法、リハビリテーション

第１０週　治療法の種類　放射線療法　レーザー療法

第１１週　ペインコントロール　救急療法

第１２週　薬物療法

第１３週　理学療法

第１４週　手術療法

第１５週　臨床心理

テキスト

臨床医学総論　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

ビジュアルノート　（メディックメディア社）

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
総合領域Ⅳ （東洋医学系）	2	前期・後期	講義・実習	木場　由衣登

授業の目標

教科書『東洋医学概論』における古代の鍼法・灸法について理解し、鍼灸成立の歴史背景を理解する。

授業の概要

テキストを基本としながら、古典における鍼法・灸法・その他の伝統医学的治療法について解説する。

授業計画

第１週　　治療論：総論及び原則
第２週　　養生について
第３週　　治療法（１）：古代九鍼①
第４週　　治療法（２）：古代九鍼②
第５週　　治療法（３）：古代九鍼③
第６週　　治療法（４）：古代九鍼④
第７週　　刺法（１）：三刺
第８週　　刺法（２）：五刺
第９週　　刺法（３）：九刺
第１０週　刺法（４）：十二刺
第１１週　補瀉法
第１２週　治療原則：経絡治療・中医鍼灸
第１３週　手技療法：按摩・導引
第１４週　薬物療法：漢方療法概説
第１５週　薬物療法：漢方療法治療論まとめ

テキスト

東洋医学概論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

中医学の基礎　東洋学術出版社
経絡治療のすすめ　医道の日本社

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
総合領域Ⅴ （西洋医学系）	3	前期・後期	講義・実習	伊藤　彩花

授業の目標

広範に及ぶ疾患を、基礎医学に基づいて理解させることを目的とする。

授業の概要

循環器疾患・内分泌疾患・代謝栄養疾患・腎尿路疾患を行う。概要・症状・治療等について講義を行う。

授業計画

第１週　　循環器疾患（心不全・僧帽弁狭窄症・僧帽弁閉鎖不全症）
第２週　　循環器疾患（大動脈弁狭窄症・大動脈弁閉鎖不全症・心房細動）
第３週　　循環器疾患（狭心症・心筋梗塞・動脈硬化）
第４週　　循環器疾患（大動脈瘤・大動脈解離・高血圧）
第５週　　内分泌疾患（クッシング病・先端巨大症・成長ホルモン分泌不全性低身長症）
第６週　　内分泌疾患（尿崩症・甲状腺機能亢進症・甲状腺機能低下症）
第７週　　内分泌疾患（クッシング症候群・原発性アルドステロン症）
第８週　　内分泌疾患（アジソン病・褐色細胞腫）
第９週　　代謝・栄養疾患（糖尿病・高脂血症・肥満症）
第１０週　代謝・栄養疾患（痛風・ビタミン欠乏症過剰症・骨軟化症）
第１１週　腎尿器疾患（急性糸球体腎炎）（ネフローゼ症候群）
第１２週　腎尿器疾患（急性腎不全・慢性腎不全）
第１３週　腎尿器疾患（腎盂腎炎・膀胱炎・尿道炎）
第１４週　腎尿器疾患（腎細胞癌・膀胱癌）
第１５週　腎尿器疾患（腎尿管結石症）（前立腺肥大・前立腺癌）

テキスト

臨床医学各論　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

内科学Ⅰ・Ⅱ　医学書院
ハリソン内科学　メディカルサイエンスインターナショナル
標準整形外科学　医学書院
オールカラー家庭の医学　成美堂出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
総合領域Ⅴ （西洋医学系）	3	前期・後期	講義・実習	伊藤　彩花

授業の目標

広範に及ぶ疾患を、基礎医学に基づいて理解させることを目的とする。

授業の概要

血液疾患・神経疾患・自己免疫疾患・外科疾患・麻酔科疾患・婦人科疾患・皮膚科疾患・眼科疾患・耳鼻科疾患・精神科疾患を行う。概要・症状・治療等について講義を行う。

授業計画

第１週　　血液・造血器疾患（鉄欠乏性貧血・巨赤芽球性貧血・溶血性貧血・再生不良性貧血）
第２週　　血液・造血器疾患（白血病・悪性リンパ腫・紫斑病・血友病）
第３週　　神経疾患（脳塞栓・脳血栓・脳出血・クモ膜下出血・一過性脳虚血発作）
第４週　　神経疾患（髄膜炎・脳腫瘍・脊髄腫瘍）
第５週　　神経疾患（パーキンソン病・脳性麻痺・脊髄小脳変性症）
第６週　　神経疾患（アルツハイマー病・重症筋無力症・進行性筋ジストロフィー症）
第７週　　神経疾患（筋萎縮性側索硬化症・ギラン･バレー症候群）
第８週　　神経疾患（絞扼性末梢神経障害・神経痛・緊張型頭痛・片頭痛）
第９週　　自己免疫疾患（全身性エリテマトーデス・進行性全身性硬化症・ベーチェット病）
第１０週　自己免疫疾患（シェーグレン症候群・関節リウマチ）
第１１週　外科・麻酔科疾患（熱傷・凍傷・ショック・心肺蘇生術・局所麻酔・神経ブロック）
第１２週　婦人科疾患（子宮癌・乳癌・更年期障害・子宮筋腫）
第１３週　皮膚科・眼科疾患（接触性皮膚炎・アトピー性皮膚炎・結膜炎・白内障・緑内障）
第１４週　耳鼻科疾患（メニエール病・突発性難聴・アレルギー性鼻炎）
第１５週　精神科疾患（神経症・統合失調症・うつ病）

テキスト

臨床医学各論　東洋療法学校協会編　医歯薬出版

教材・参考文献

内科学Ⅰ・Ⅱ　医学書院
ハリソン内科学　メディカルサイエンスインターナショナル
標準整形外科学　医学書院
オールカラー家庭の医学　成美堂出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
総合領域Ⅵ （西洋医学系）	3	前期・[後期]	[講義]・実習	神園　恭一 高橋　和行

授業の目標

各科目の問題演習を通じで、１・２年次までに学んだ内容を復習し、総合力を身につけさせる。また、模擬試験を実施し、自身の実力を確認し、今後の学習に活かせるようにする。

授業の概要

国家試験に出題された分野を中心に問題演習及び解説を行う。

授業計画

第１週　　国家試験問題演習（病理学）
第２週　　国家試験問題演習（病理学）
第３週　　国家試験問題演習（臨床医学各論・感染症）
第４週　　国家試験問題演習（臨床医学各論・消化器疾患）
第５週　　国家試験問題演習（臨床医学各論・肝胆膵疾患）
第６週　　国家試験問題演習（臨床医学各論・呼吸器疾患）
第７週　　国家試験問題演習（臨床医学各論・腎泌尿器疾患）
第８週　　国家試験問題演習（臨床医学各論・内分泌疾患）
第９週　　国家試験問題演習（臨床医学各論・代謝疾患）
第１０週　国家試験問題演習（臨床医学各論・循環器疾患）
第１１週　国家試験問題演習（臨床医学各論・血液疾患）
第１２週　国家試験問題演習（臨床医学各論・膠原病・リウマチ疾患）
第１３週　国家試験問題演習（臨床医学各論・整形外科疾患）
第１４週　国家試験問題演習（臨床医学各論・神経疾患）
第１５週　国家試験問題演習（臨床医学各論・その他疾患）

テキスト

病理学・臨床医学各論　東洋療法学校協会編

教材・参考文献

成績評価の方法

定期的に模擬試験を行い、国家試験に準じた評価法で評価を行う。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
総合領域Ⅶ （東洋医学系）	3	前期・後期	講義・実習	神園　恭一／木場　由衣登 高橋　和行

授業の目標

各科目の問題演習を通じで、１・２年次までに学んだ内容を復習し、総合力を身につけさせる。また、模擬試験を実施し、自身の実力を確認し、今後の学習に活かせるようにする。

授業の概要

国家試験に出題された分野を中心に問題演習及び解説を行う。

授業計画

第１週　国家試験問題演習（東洋医学概論、はりきゅう理論）①
第２週　国家試験問題演習（東洋医学概論、はりきゅう理論）②
第３週　国家試験問題演習（東洋医学概論、はりきゅう理論）③
第４週　国家試験問題演習（東洋医学概論、はりきゅう理論）④
第５週　国家試験問題演習（東洋医学概論、はりきゅう理論）⑤
第６週　国家試験問題演習（東洋医学概論、はりきゅう理論）⑥
第７週　国家試験問題演習（東洋医学臨床論・診断と治療）
第８週　国家試験問題演習（東洋医学臨床論・施術の基礎）
第９週　国家試験問題演習（東洋医学臨床論・症候に対する東西両医学からのアプローチ）
第１０週　国家試験問題演習（東洋医学臨床論・症候に対する東西両医学からのアプローチ）
第１１週　国家試験問題演習（東洋医学臨床論・疾患に対する東西両医学からのアプローチ）
第１２週　国家試験問題演習（東洋医学臨床論・疾患に対する東西両医学からのアプローチ）
第１３週　国家試験問題演習（東洋医学臨床論・高齢者に対する鍼灸施術）
第１４週　国家試験問題演習（東洋医学臨床論・スポーツ領域における鍼灸施術）
第１５週　国家試験問題演習（東洋医学臨床論・スポーツ領域における鍼灸施術）

テキスト

東洋医学概論　はりきゅう理論　東洋医学臨床論　東洋療法学校協会編　医道の日本社

教材・参考文献

成績評価の方法

定期的に模擬試験を行い、国家試験に準じた評価法で評価を行う。

備考

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
総合領域Ⅷ (経絡経穴学)	3	前期・後期	講義・実習	木場　由衣登

授業の目標

十二正経と任督脈の全経穴について、取穴法と身体上の解剖学的位置を修得する。

授業の概要

全経絡の経穴を教科書に従って取穴し、その取穴法を理解し、各穴の解剖学的な位置と臨床床的意義を解説する。

授業計画

第１週　　手太陰肺経の取穴と筋肉
第２週　　手陽明大腸経の取穴と筋肉
第３週　　足陽明胃経の取穴と筋肉（１）
第４週　　足陽明胃経の取穴と筋肉（２）
第５週　　足太陰脾経の取穴と筋肉
第６週　　手少陰心経の取穴と筋肉
第７週　　手太陽小腸経の取穴と筋肉
第８週　　足太陽膀胱経の取穴と筋肉（１）
第９週　　足太陽膀胱経の取穴と筋肉（２）
第１０週　足少陰腎経の取穴と筋肉
第１１週　手厥陰心包経の取穴と筋肉
第１２週　手少陽三焦経の取穴と筋肉
第１３週　足少陽胆経の取穴と筋肉（１）
第１４週　足少陽胆経の取穴と筋肉（２）
第１５週　足厥陰肝経の取穴と筋肉

テキスト

新編経絡経穴概論（第２版）　医道の日本社

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考

教育演習

教育演習　鍼灸臨床に必要な、知識の習得を目的とする

1単位30時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
教育演習Ⅰ （統合医療・アロマ）	1	前期・後期	講義・実習	木場　由衣登／市橋　香澄 平野　なるみ

授業の目標

補完・代替医療の一つであるアロマテラピーの基礎を学習し、施術の幅を広げると共に施術所運営にも役立てる。

授業の概要

テキスト及びエッセンシャルオイルを使い、知識と実際の使い方を学習する。

授業計画

第１週　　アロマテラピー概説（香りを楽しむ。アロマテラピーのある暮らし）
第２週　　精油のプロフィール①
第３週　　精油のプロフィール②
第４週　　精油のプロフィール③
第５週　　精油のプロフィール④
第６週　　アロマテラピーの歴史①
第７週　　アロマテラピーの歴史②
第８週　　アロマテラピーの楽しみ方
第９週　　アロマテラピーの実際①（セルフケア・ホームケア）
第１０週　アロマテラピーの実際②（セルフケア・ホームケア）
第１１週　アロマテラピーの実際③（セルフケア・ホームケア）
第１２週　アロマテラピーのメカニズムと健康学①
第１３週　アロマテラピーのメカニズムと健康学②
第１４週　アロマテラピーに関する法律
第１５週　補完・代替医療とアロマテラピー

テキスト

これ１冊できちんとわかるアロマテラピー　マイナビ

教材・参考文献

最初の１回で必ず合格したい人のためのアロマテラピー検定１級・２級　日本アロマテラピースクール
エッセンシャルオイル・キャリアオイル

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

備考